

## ヘヴン (2002)

HEAVEN

メディア 映画

ジャンル ロマン스 ドラマ

製作国 ドイツ／イギリス／アメリカ／フランス

色彩 Color

時間 96分

初公開日 2003/03/08

公開情報 アスミック・エース

## 【キャッチコピー】

愛してる

もっと強く、もっと高く

## 【解説】

「トリコロール」三部作などの巨匠クシシュトフ・キエシロフスキの遺稿脚本を「ラン・ローラ・ラン」のトム・ティクヴァ監督がケイト・ブランシェット主演で映画化した、一組の男女の運命的な愛を描いたラブ・ストーリー。共演は「ギフト」のジョヴァンニ・リビシ。破滅へと向かう男女の愛の逃避行が静かに緊張感溢れるタッチで綴られる。

イタリア・トリノ。英語教師のフィリップは高層ビルに忍び込み時限爆弾を仕掛けた。彼女の目的は一人の男を殺すこと。彼女の愛する夫を死に至らしめ、大切な教え子たちを不幸へと導いた麻薬密売人。フィリップはこれまで何度も男を逮捕するよう憲兵隊に訴えたが相手にされず、自ら行動に出たのだった。やがて、彼女の自宅に憲兵隊が突入する。彼女は抵抗することもなく憲兵隊に捕えられる。憲兵隊での取り調べが始まると、フィリップが英語しか話そうとしないため、その場に書記として同席していた新人憲兵フィリップが通訳を買って出る。尋問が進む中で、フィリップは男が死を免れ罪なき4人が犠牲になったことを知らされ、ショックのあまり気を失ってしまう。フィリップはそれを為すすべもなくただ見つめていた…。

静謐にして濃密、寡黙でありながらなんとも豊かな心の交流。後半、トスカーナの美しい風景の中で展開する二人の逃避行は、無駄な音楽を極力廃してどこまでも静かに（二人が踏みしめる砂利の音がこんなにも愛しいものだとは！）緊張感たっぷりに、それでいて優しさと温もりをもって描かれる。主演の二人が、抑えた演技ながら内面から滲み出る感情を見事に表現して素晴らしい。また、出番こそ少ないものの、世間知らずで純粋な我が子を優しく見守る父親を演じたレモ・ジローネも印象深い。観る者の心に強く深く迫る感動作。そしてまた一つ映画史に残る名ラストシーンが誕生した（かなり強引なんだけど…）。

## 【クレジット】

監督	トム・ティクヴァ	Tom Tykwer
製作	マリア・ケープフ	Maria Kopf
	ウィリアム・ホーバーグ	William Horberg
	シュテファン・アルント	Stefan Arndt
	フレデリック・デュマ	Frederique Dumas
製作総指揮	アンソニー・ミンゲラ	Anthony Minghella
	アニエス・メントレ	Agnes Mentre
	シドニー・ポラック	Sydney Pollack
	ハーヴェイ・ワインスタイン	Harvey Weinstein
脚本	クシシュトフ・キエシロフスキー	Krzysztof Kieslowski

	クシシュトフ・ピエシェヴィッチ	Krzysztof Piesiewicz	
撮影	フランク・グリーベ	Frank Griebel	
編集	マティルド・ボンフォワ	Mathilde Bonnefoy	
音楽	アルヴォ・ペルト	Arvo Part	
出演	ケイト・ブランシェット	Cate Blanchett	フィリッパ
	ジョヴァンニ・リビシ	Giovanni Ribisi	フィリッポ
	レモ・ジローネ	Remo Girone	フィリッポの父親
	ステファニア・ロッカ	Stefania Rocca	レジーナ
	アレックスandro・スペルドウーティ	Alessandro Sperduti	アリエル
	マッティア・スブラージャ	Mattia Sbragia	ピニ警視
	ステファノ・サントスパーゴ	Stefano Santospago	ヴェンディーチェ
	アルベルト・ディ・スタシオ	Alberto Di Stasio	検察官
	ジャンフランコ・バラ	Gianfranco Barra	
	ヴィンセント・リオッタ	Vincent Riotta	